

國學院大學學術情報リポジトリ

近代中国語会話書『清語会話案内』における能願動詞について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-04-19 キーワード (Ja): 能願動詞, 近代中国語会話書, 日中対照, 近代日本語, 『清語会話案内』 キーワード (En): 作成者: 金, 敬玲 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000308

近代中国語会話書『清語会話案内』における能願動詞について

金 敬 玲

論文要旨

近年、外国人である日本人により作成された近代中国語関係書は中国語及び中国語教育研究の資料としてだけでなく、日本語及び日本語教育研究の資料としてもその価値が評価されている。近代中国語関係書の日本語訳文を資料とした当為表現、可能表現など近代日本語きんだいにほんごについての研究は見られるが、それを日中対照にっちゅうたいしょう研究に用いた研究は管見の限りない。

現代中国語における能願動詞のうがんだうしは助動詞の役割を担っている。本稿では、近代中国語きんだいちゅうごくご会話書『清語会話案内』における中国語の能願動詞に対応する日本語の表現形式について、願望や意志を表すもの、可能・可能性を表すもの、必要性を表すもの、禁止・阻止を表すものに分けて観察した。その結果、願望や意志を表す能願動詞と「タイ/タガル」、意向形、「ツモリダ」、動詞無標形式との対応、可能・可能性を表すものと「(ラ)レル/可能動詞」「デキル」との対応、必要性を表すものと「ベキ」と「ナケレバナラナイ類」、命令表現及び推測表現との対応、禁止や阻止を表すものと禁止機能の命令表現、禁止表現さらに「ニハ及バヌ」との対応が観察できた。

キーワード：能願動詞のうがんだうし 近代中国語会話書きんだいちゅうごくご かいわしょ 日中対照にっちゅうたいしょう 近代日本語きんだいにほんご 『清語会話案内』しんごかいわあんない

1. はじめに

中国語における能願動詞とは助動詞の一つの分類で、可能、願望、必要など表せる意味も多く、各意味を表す表現の種類も多く、日本語にはない概念である。

川口(1980)では中国語の能願動詞を以下のように5種類に分類し、説明している。

(1) 願望や意志を表すもの

個人が、ある動作、行為を「したい」あるいは「しようとする」意志、願望、決心を表す。“想、要、願意、敢、肯”が主な例である。

(46)

(2) 可能性を表すもの

主動詞あるいは形容詞の表す動作、行為の可能性を補助する。“能、能够、会、可以、可能”が主な例である。

(3) 必然性を表すもの

ある動作が、道理上「～すべきだ」「～するのが当然だ」の意の如く、ある事柄を推論したり、推測することによって行われる当然性を表す。“應該、該、应当”が主な例である。

(4) 必要性を表すもの

ある動作の事実上、環境上における必要性、あるいは意志や要求に基づく必要性を表し、「～しなければならない」という比較的強い義務的意義が含まれる。“須要、要、必須、得”が主な例である。

(5) 禁止・阻止を表すもの

主動者の意志に基づいたり、あるいはある動作、行為が不必要であったりしてはならないという禁止や阻止の意味。“不要、不用、不必”が主な例である。

このような川口(1980)の分類方法のうち、(2)の「可能性を表すもの」については、その主な例である“会”が「能力」の意のほか「可能性」を表わせること、“能”には「可能性」の用法はないが、「能力」と「可能」を表わせることから、本稿ではこれらの分類を「可能・可能性を表すもの」とする。

また、(3)の「必然性」と(4)の「必要性」については、本稿で対象とした『清語会話案内』においては日本語訳文で、両者が重なるケースが多い。現代中国語文法ではこの二つの分類と(5)の「禁止・阻止を表すもの」を合わせ、「必要性を表すもの」の1つの分類にする研究も少なくないが、本稿では(5)は除き、(3)と(4)を「必要性を表すもの」とする。

以上の変更により、本稿においては能願動詞をⅠ 願望や意志を表すもの、Ⅱ 可能・可能性を表すもの、Ⅲ 必要性を表すもの、Ⅳ 禁止・阻止を表すものの4種類に分類し、中国語をもととし、その日本語訳を示しつつ、中国語の能願動詞が日本語でどう訳されるかについて分析する。

2. 『清語会話案内』について

西島良爾が1900年に出版した『清語会話案内』は、北京官話教育の早期において、内容上も形式上も珍しく整えられた教科書であると言われている(王2016)。また、『清語会話

案内』の内容は後の教科書に継承された部分が多く、当時の北京語の実態をかなり忠実に反映しているため、相当の言語的価値も持っている（王2016）とされる。

『清語会話案内』は1900年7月に上巻が、11月に下巻が刊行された。上巻は「単語」「散語」「抄話」、下巻は「単語」「續散語」「問答」「抄話」と付録「検字」により構成されている。上巻の「散語」と「抄話」、下巻の「續散語」と「問答」が日中対照研究の対象としてふさわしく、本稿ではその中から能願動詞を抽出し日中対照研究を試みる。

『清語会話案内』の上巻と下巻は共に国立国会図書館のデジタルコレクションで閲覧可能であり、調査にあたってはこれを使用した。

本稿では、中国語会話書である『清語会話案内』における能願動詞及びこれに準じる表現を対象に、中国語の能願動詞に対応する日本語の表現形式について、以下、3節で「願望や意志を表すもの」を、4節で「可能・可能性を表すもの」を、5節で「必要性を表すもの」を、6節で「禁止・阻止を表すもの」を扱い、分析する。

3. 願望や意志を表すもの

中国語の能願動詞における願望を表す表現は「願望・意志・意欲」と解釈するのが普通である。中国語における意志表現と願望表現とは区分されず「意願表現」という範疇に統一されている（孫2014）。しかし、日本語においては、願望を表す「シタイ」を意志を表す意志表現「シヨウ」「スル」「スルツモリダ」と区別し分析する先行研究が多く見られる（仁田1991、森山1990）。これについて、孫（2014）では、「意志」と「願望」とは切っても切れない関連性があり、一緒に並べて研究する必要があると主張し、特に日中対照研究ということを考慮すると「シタイ」を外すことができないと述べている。本稿においても、本来の願望表現と意志表現を区別せず、願望や意志を表す表現とし、対照研究を行う。

『清語』¹で見られる願望や意志を表す能願動詞は50例で、“要”を用いた例文が最も多い。“要”のほか“肯、敢”とそれらの否定表現が見られる。願望や意志を表す能願動詞を【表1】に示す。

¹『清語会話案内』を表す、以下同様。

【表1】『清語会話案内』における願望や意志を表す能願動詞

能願動詞	対応する日本語の表現形式 (例文数)	中国語の文例	日本語の訳文
要	タイ / タガル (16)	要买	買イタイ
		要哭	泣キタガル
		要吃	食ベタイ
		要下棋	囲碁ヲシタイ
		要雇	頼ミタイ
		要手工加密	丁寧ニシタイ
		要买	買ヒタイ
		要商量	相談シタイ
		要会面	面會シタイ
		要做	作りタイ
		要到尊府上望看	御尋シタイ
		想要得那个钱	其金ヲ得タイ
		要欺负	欺キタガル
		要报仇	報シタガル
		要托一件事	頼ミタイ
		要上西山	西山へ行キタイ
	意向形「ウト / ート」 (6)	要捆	シバロウト
		要带封信	手紙ヲ送ロート
		要改	改メヨウト
		要浮过去	渡ロート
		要撵	断ロウト
		要做那个菜	アノ菜ヲ作ロート
	ツモリダ (2)	要起身	出發致スツモリデス
		要瞻仰瞻	探ル積リデス
		要躺着	寝ルカラ
	カラ (4)	要出去	出テ行クカラ
		要画画儿	畫ヲ書クダカラ
		要看书	本ヲ見ルカラ
		要出城	行キマス
	動詞無標形式 (12)	要募化重修	募テ修覆スル
		要看新月	新月ヲ見ル
		要决裂	分裂スル
		要卖	売ル
		要卖	売家ガアル
		要卖多少银子	売価何程ダカ
		要典	質ニ取テ置ク
		要卖	売ルト云フ
		要卖	売ルト云フ
		不是要卖	売リマセン
		要典	質ニ置ク

能願動詞	対応する日本語の表現形式 (例文数)	中国語の文例	日本語の訳文
敢	動詞無標形式 (1)	敢強嘴	ゴウヂョウダ
不 (没) 敢	動詞無標形式の否定表現 (7)	不敢说撒谎	詐ヲ申シマセン
		不敢错的	間違ハ致シマセン
		不敢动价儿	値段ハ引ケマセン
		没敢告诉	話サナイデシタ
		不敢多喝了	飲マナカッタ
		不敢求您救济	救助ハ願ヒマセン
		不敢卖	売レマセン
不肯	動詞無標形式の否定表現 (2)	不肯传授	教エヌ
		不肯留	泊テ呉レマセン

3.1 能願動詞“要”に対応する日本語の表現形式

願望や意志を表す能願動詞は“要”が一番多く見られ、「タイ」と第三人称の「タガル」に訳した例文が16例である。そのほとんどが「シタイ」動作の動詞に付くものだが、下記の3例のように2つの動作が連続する場合、中国語においては能願標識を前の動詞に付け、日本語訳では後ろの動詞に「タイ」をつけた例文も見られる。なお、例文2)のように能願標識の“想”と“要”が一緒に使われ意志を強めた例も見られる。

- 1) 这块地的方向倒还合我的式这块地主儿是谁我要找他商量商量卖不卖 (此地面ノ方角ハ私ノ気ニ入タ此地主ハ誰レデスカ私ハ彼ヲ尋ネテ此地面ヲ売ルカ売ラヌカ相談シタイ) 上百六
- 2) 想要害那个朋友。得那个钱。(其人ヲ殺シテ其金ヲ得タイ) 上百四十一
- 3) 我要找他托一件事去。(私ハ彼ヲ尋テ一件ノ事ヲ頼ミタイト思フガ) 上四十三
“要”を意向形に訳した例文6例で「思フ」と共起するものが4例見られる。「シヨウト思ウ」が「シヨウ」の丁寧表現(孫2014)であるためであろう。
- 4) 我要拿绳子捆上他你帮着绕结实这绳子 (私ハ繩デ彼ヲシバロウト思フ汝助ケテ此繩ヲシッカリ引ケ) 上百七
- 5) 要带封信去也没使人。(手紙ヲ送ロウト思フテモ人ガナカッタ) 下三十七⁴
- 6) 我就要浮过去。(泳テ渡ロウト思フタガ) 下四十三
- 7) 你要做那个菜。等水开了。(汝アノ菜ヲ作ロウト思フナラ水ガ沸騰スルヲ待テ) 下五十八

² 『清語會話案内』における中国語表現は繁体字と旧字を使用しているが、本稿における中国語表現の漢字は本稿で現代簡体字に変更したものである。

³ 「上百六」は上巻の百六ページを表す。

⁴ 「下三十七」は下巻の三十七ページを表す。

森山（1991）では「スルツモリダ」について「つもり」という語彙的な意味の通り、「話し手の心内に予定として取り込まれて記憶されているもの」と解釈している。原文においても、「つもり」を意味する“打算”との共起が見られる。

- 8) 我打算明天蒙蒙亮儿就要起身哪（私ハ明早朝クライウチニ出發致スツモリデス）上
百二十一
- 9) 没什么事也不过打算在京里住了两三年学点儿京话要瞻仰瞻仰贵国各处的名胜古迹就是了（何モアリマセン北京ニ二三年住テ言葉ヲ学ビ其上各地ノ名勝古跡ヲ探ル積リデス）
下百五

「カラ」に訳したように見える例文が4例あるが、川口（1980）の解釈のように「しようとする」意志、願望、決心を表す表現であるため、これから何かをする「から」、それに備えた動作の指示文に使われたと考えられる。「寝ル」から「布テ呉レ」（例文10）、「出テ行ク」から「私ノ歸ルヲ待テ」（例文11）、「書ク」から「鉛筆ト絵具トヲ持テ来イ」（例文12）、「見ル」から「燈ヲ持テ来イ」（例文13）のように「カラ」の前の動作に備えるために話し手が出す指示であるため、文脈上やむを得ず「カラ」に訳したと考えられる。

- 10) 给我把铺盖铺上我要躺着（私ニ夜具ヲ布テ呉レ私ハ寝ルカラ）上
百
- 11) 我有件事要出去你好好儿在这儿等我回来（私ハ用事ガ有テ出テ行クカラ汝ハ此處で私ノ歸ルヲ待テ）上
百二
- 12) 在书架子上的铅笔颜料都拿来我要画画儿（書棚ノ上ノ鉛筆ト絵具トヲ持テ来イ私ハ畫ヲ書クダカラ）上
百六
- 13) 拿一盏灯来我要看书（一皿ノ燈ヲ持テ来イ本ヲ見ルカラ）上
百三十六

“要”が動詞無標形式に訳された例文は12例見られる。安達（2002）では、動詞無標形式は本来意志を表す形式ではなく、話し手の未実現の意志的行為に言及する場合に意志の側面が前面に出ることがあると述べている。

また、“要”に関して、近代中国語文法書『注釈日清語学金針』（1905）でも以下のように解釈している。

要……………「……マス」

要は、助辞としては、未来決定の意を表する語にして、文語の「……せんとす」若しくは「……せんと欲す」の意に當る、（後略）七十

- 14) 我要出城听戏去（私ハ城外へ芝居ヲ見ニ行キマス）上
七十九
- 15) 那两国说合不开。要决裂。（アノ二国ガ和議ガ破レテ分裂スルソウデス）下
五十九

上記2例のように、動詞無標形式に訳した例文を見ると、中国語表現は「これから芝居を見に行く（例文14）」「これから分裂する（例文15）」で、日本語においては「未実現の意志的行為」として、動詞無標形式に訳したと考えられる。

3.2 能願動詞“敢”及びその否定である“不敢”に対応する日本語の表現形式

『清語』では能願動詞“敢”の肯定表現が1例、否定表現“不敢”が5例と、否定表現の過去形“没敢”が1例見られる。

“敢”に関して、『日清語学金針』では以下のように解釈している。

敢……「ヨウ・・・・マス」

不敢……「ヨウ・・・・マセン」

敢は、敢てするの意、即ち押し切つて能く為すの意なり、不敢は、敢の反の意に當る。

百

『清語』における“敢”は動詞無標形式に訳した例文はあるが、訳文に「ヨウ」は見られない。

16) 你敢强嘴我打你（汝ゴウヂヨウダト打ツゾ）上九十一

17) 我不敢说撒谎（私ハ決シテ詐ヲ申シマセン）上七十九

18) 放心放心小店的字号要紧决不敢错的（御安心ナサイ我共ノ屋号ガ大事デスカラ決シテ間違ハ致シマセン）上九十一

19) 一对至一百对都不敢动价儿（一對ガ百對デモ値段ハ引ケマセン）上九十八

20) 现在我已经有钱不敢求您救剂。（只今ハ財産モ出来タカラ最早救助ハ願ヒマセン）上
百六十

21) 少了八十两银子不敢卖（八十両ヨリ少クテハ売レマセン）下七十七

また、下記の例文22)を見ると、中国語例文は「あまり飲まなかった」ではなく、「もうこれ以上飲みません」の意を表し、日本語訳文は誤訳ではあるが、当時過去形「ナカタ」が使用されていることは分かる。しかし、例文23)で“不敢”の過去形に当たる“没敢”は「ナイデシタ」と不自然な過去形式に訳されている。

22) 不敢多喝了。（餘リ飲マナカタ）上百四十六

23) 我见老爷手底下有事所以没敢告诉您说（私ハ旦那ノ手元ニ用事ガアル様子デスカラ汝ニ話サナイデシタ）上百三十一

3.3 “不肯”に対応する日本語の表現形式

能願動詞“肯”は見られず、否定表現“不肯”の例文が2例見られ、ともに動詞無標形式訳文である。

24) 不肯传授外人的 (外国人ニ教エヌ) 上七十八

25) 因为我们没带着行李他们不肯留我们住(私共ガ荷物ガナイカラ彼等ガ泊テ呉レマセン)
上百三十一

4. 可能・可能性を表すもの

日本語の「可能」の主な表現形式としては、i「食べる→食べられる」「書く→書ける」のような「(ラ)レル」や可能動詞と、ii「吸う→吸うことができる」のような「(コトガ)デキル」とがある。このほか、iii「起こる→起こりうる/起こりえない」のような「ウル/エル」もあるが、iiiは主としては「可能性」の表現形式である。『清語』における可能・可能性を表す能願動詞の日本語訳文はiの「(ラ)レル/可能動詞」とiiの「デキル」が見られる。

『清語』では、能願動詞“会、能”とこれらの否定表現と“可以”が見られ、これらを【表2】に示す。

【表2】『清語会話案内』における可能・可能性を表す能願動詞

能願動詞	対応する日本語の表現形式 (例文数)	中国語の文例	日本語の訳文	
会	デキル (5)	会针线	針仕事ガ出来マス	
		会说英国话	英語ガ出来マス	
		会说法国话	佛蘭西語ハ出来マス	
		会做活	仕事ガ出来ル	
		会缝纽扣儿	ヒモヲ縫フコトガ出来マス	
不会	デキナイ / ヌ (3)	越急越不会	セケバセクホド出来ナイ	
		还不会	マダ出来マセン	
		什么都还不会	何ニモ出来マセン	
	(ラ) レナイ / 可能動詞の否定表現 (1)	不会喝	飲メマセン	
		会梳不会	結ベナイカ	
		i 方ヲ知ラナイ (2)	北边人不会	北方ノ人ハ造リ方ヲ知ラナイ
			不会说话	話シ方ヲ知ラナイ

能願動詞	対応する日本語の表現形式（例文数）	中国語の文例	日本語の訳文
不能	デキナイ / ス（４）	不能贱卖	安売ハ出来ナイ
		不能买卖	賣買ハ出来ヌ
		花就不能看	花見ガ出来ナイ
		不能花言巧语	言葉ヲ飾ルコトガ出来ナイ
	ナラヌ（１）	天不能从人愿	思フ様ニナラヌ
	(ラ) レナイ / 可能動詞の否定表現（３）	不能出去	出ラレナイ
		不能那么连贯	連続シテ言ヘマセン
		不能忍了	耐ヘ切レナイ
	能願動詞との対応訳が見られなかった文（４）	不能让点儿么	少シマケナイカ
		不能治了	全治シナイ
		不能治了	治ラナイ
		还是不能行善事	又善イコトモ行ハナイ
	能	能願動詞との対応訳が見られなかった文（１）	能出来了
可以	(ラ) レル / 可能動詞（２）	可以吃	食ベラレル
	ヨウ / マシヨウ（３）	可以做点心	菓子ヲ造ラレル
		可以多咱起身呢	何日出發致シマシヨウカ
		可以给您较点儿胡子么	汝ノ髭ヲ剪テアゲマシヨウ
		可以给	呉レヨウ
	命令表現（１）	可以拿过两张去	二ツ支持テ行ケ
能願動詞との対応訳が見られなかった文（１）	又可以说四面风	四面風トモ云フ	

4.1 能願動詞“会”及びその否定である“不会”に対応する日本語の表現形式

【表2】のように、“会”に対応する日本語表現は「デキル」と「(ラ) レル / 可能動詞」が見られる。

現代中国語における“会”は「能力」のほか下記例文 a のように「可能性」の意をも表す。しかし、『清語』には“会”の可能性の例文は出ていない。このため『清語』の“会”の日本語訳は、「デキル」「(ラ) レル / 可能動詞」のみとなっている。

a) 跑太快会摔倒。(早く走ると転んでしまう。)

否定表現“不会”もそれぞれ「デキル」と「(ラ) レル / 可能動詞」の否定表現に訳しており、「可能性」の意を表すものはない。

そのほか、“不会”を「i方ヲ知ラナイ」に訳した例文が2例見られる。

26) 綢緞是先染系后上机。北边人不会。(縮緬や緞子ハ先ニ糸ヲ染メテ後ニ機ニ上セル北

(54)

方ノ人ハ造リ方ヲ知ラナイ) 下四十八

27) 恕我是拙嘴笨腮的。不会说话。(私ノ口ノ下手デ話シ方ヲ知ラナイコトヲ恕シテ呉レ
ロト) 下四十九

「造り方ヲ知ラナイ」「話シ方ヲ知ラナイ」——即ち2例とも方法を知らないという「能力」に関する表現で「可能性」の例文ではない。

4.2 能願動詞“能”及びその否定である“不能”に対応する日本語の表現形式

能願動詞“能”について、否定表現“不能”と日本語表現の「デキル」「(ラ)レル/可能動詞」の否定表現との対応が見られる。現代中国語における“能”には「可能性」の用法はないが、「能力」と「可能」の用法がある。この両者は、しばしば「能力可能」と「状況可能」と呼ばれる。

28) 明天要是下雨。花就不能看了。(明日雨ガ降レバ花見ガ出来ナイ) 上百五十八

29) 我不能像人家那么花言巧语的。(私ハ人ノ如ク言葉ヲ飾ルコトガ出来ナイ) 下四十九

例文28)は状況的に不可能な状況で「状況(不)可能」の意を表し、例文29)は他人のようによく言葉が言えない「能力(不)可能」の意を表している。

また、中国語表現“不能”と、日本語訳「ナラヌ」(自動詞「なる」の否定形)との対応が1例見られる。

30) 天不能从人愿。世上的事。常常这么样啊。(世ノ中ノ事ハ思フ様ニナラヌモノダ) 上百五十三

“不能”と「デキル」「(ラ)レル/可能動詞」の否定表現との対応のほか、日本語訳文に能願動詞との対応訳が見られなかった文が“能”に1例、“不能”に5例見られる。

31) 一个一个的。才能出来了。(漸ク一人宛出テ来タ) 上百四十三

32) 买的多不能让点儿么(買ヒ方ガ多イカラ少シマケナイカ) 上八十八

33) 肺已经坏了不能治了(肺ガ破レテ全治シナイ) 上百三十八

34) 肺已经坏了。不能治了。(肺ハ已ニ壊レタカラ治ラナイ) 上百五十五

35) 还是不能行善事。(又善イコトモ行ハナイ) 下四十八

例文31)は「出てくることができる」の意だが、日本語訳文では「出テ来タ」となっていて、“能”に対応していると思われる表現はない。また、例文32)～例文35)の日本語訳文を見ると“不能”の“不”に対応できる否定の日本語表現は見られるが、それが“不能”に対応するとは言い難い。

4.3 能願動詞“可以”に対応する日本語の表現形式

“可以”の意味について、呂（2003）では「可能」「用途」「許可」「価値」の四つの意味を有すると述べている。呉（2015）では、中国語における“可以”は「能力」「許可」「勧め」の意味を表す複数の日本語に対応していると述べている。用途（例文36）と可能（例文37）の例文が以下のように見られ、「(ラ)レル/可能動詞」と対応している。

36) 糯米做酒又可以做点心（餅米ハ酒又ハ菓子ヲ造ラレル）上八十八

37) 藕粉是雪白很细病人都可以吃（葛ハ白クマコトニ細イカラ病人モスベテ食ベラレル）
上三十八

また、“可以”が「勧め」の意で使用され日本語表現の「ヨウ」「マシヨウ」と対応する例文が以下のように3例見られる。

38) 我可以给您较点儿胡子么（私ハ汝ノ髭ヲ剪テアゲマシヨウ）上九十二

39) 我都可以给。（何品デモ望ナラ呉レヨウ）上百六十一

40) 那么咱们可以多咱起身呢（然バオ互何日出発致シマシヨウカ）下百六

このほか、命令表現に訳された例文が1例出ている。

41) 我这屋里椅子多可以拿过两张去（私ノ此ノ部屋ニハ椅子ガ多イカラニツ丈持テ行ケ）
上百二十八

能願動詞との対応訳が見られなかった文が1例見られる。

42) 羊角风就是台风。又可以说四面风。（羊角風ハ即チ旋風ノコトデス又四面風トモ云フ）
下四十九

例文42)では「トモ云フ」ではなく「トモ云ヘル」に訳したほうが“可以”と対応していると言える。

5. 必要性を表すもの

『清語』で必要性を表すものは“該当、应该、应当、该、得、要”が見られ、それを【表3】に示す。

【表3】『清語会話案内』における必要性を表す能願動詞

能願動詞	対応する日本語の表現形式（例文数）	中国語の文例	日本語の訳文
应当	ベキ（1）	应当隠惡揚善	惡ヲ隠シ善ヲ揚ゲルヲスベキ
	ナケレバナラナイ（1）	应当齋戒沐浴	齋戒沐浴シナケレバナラナイ
	ナケレバナラナイ（1）	该当去的	往カナケレバナラナイ
该当	命令表現（1）	该起来了	起キナサイ
应该	能願動詞との対応訳が見られなかった文（1）	应该贵的	高イ
得	ナケレバナラナイ類（9）	得买	買ハネバナラス
		得小心点儿	注意シナケレバナラス
		得见一见世面	世間ノ様子ヲシラネバナラス
		得赶紧审的	至急ニ調べネバナラス
		得要小心勉励	注意シテ勉励センケレバナラナイ
		得绿叶扶持	緑葉ノ扶ケガナケレバナラス
		得小心	氣ヲ付ケネバナラス
		得赶紧审的	至急ニ審ベネバナラナイ
		得暂且关几天	暫ク關ジナケレバナラナイ
	命令表現（3）	得多穿一件	多ク着ナサイ
		得大声儿	大聲デ言ヘ
		得小心点儿	氣ヲ付ケナサイ
	「是非」（4）	得等他回来么	是非彼ノ婦ヲ待ツデスカ
		得多咱回来呢	是非何時頃歸リマスカ
		得给阁下请安去	是非ゴ機嫌伺ヒニ出マス
		得等他	是非彼ヲマツ
	推測表現（3）	得什么时候回来	何時頃歸ルデショー
		得多咱才能忙完了呢	何時ニナツタラ終リマシヨウ
		得过个十天八天的罢	八九日過タラ宜イデシヨウ
	能願動詞との対応訳が見られなかった文（3）	得出告示	告示ヲ出シテ
		得用瓷罐儿	缶ニ入レル
		得找人去钉哪	人ニツケテモラウ
	要	ナケレバナラナイ類（2）	要分别
要修盖了			修繕シナケレバナラナイ
命令表現（1）		要盘问明白	取調べロ
「是非」（1）		要快办	是非早く処分シテ
使役表現（1）	要快快的走	早く走ラセタ	

5.1 “该当、应该、应当、该”に対応する日本語の表現形式

能願動詞“该当、应该、应当、该”は「ベキ」と訳するのが最も適切だが、『清語』では「ベキ」のほか「ナケレバナラナイ」と命令表現の「ナサイ」との対応が見られる。

- 43) 人要祭祀神佛的时候头一天应当斋戒沐浴为的是干净（人ガ神佛ノ祭ヲスル時ニハ最初ニ齋戒沐浴シナケレバナラナイ身ヲ清メル為ニ）上百十三
- 44) 昨几个我是该当去的。只是听见坐中有他。所以我避讳他。不去了。请您千万别见怪。（昨日私ハ往カナケレバナラナイノデシタガ坐中ニ彼ガ居ルコトヲ聞タカラ往キマセンデシタ決シテ怪デクダサルナ）下二十九
- 45) 你也该起来了天不早了（汝起キナサイ空模様が遅イ）上百三

5.2 能願動詞“得”に対応する日本語の表現形式

“得”とは「何かを必ずする必要がある」比較的強い義務を表す能願動詞で、『清語』では“得”と「ナケレバナラナイ類」「命令表現」「是非」との対応が見られる。“得”の意味から見て、二重否定形式で肯定を表す「ナケレバナラナイ」やその類似の表現に対応する日本語表現としているのは自然であろう。また、他人への義務付けとして「命令」と対応したのも理解しやすい。そのほか、「必ず」の意で「是非」との対応が4例見られる。

- 46) 怎么这件事总得等他回来么（何故ニ此事ハ是非彼ノ帰ヲ待ツデスカ）下六十九
- 47) 日后得给阁下请安去（其中是非ゴ機嫌伺ヒニ出マス）下九十八
- 48) 怎么必得等他呢（ドウシテ是非彼ヲマツデスカ）下六十九
- 49) 得多咱回来呢（是非何時頃帰リマスカ）下六十八

上記の例文49)で、“得”に「是非」を対応させ訳しているが、日本語訳文に「是非」がないほうが中国語例文表現の意味に近い。ここでの“得”は「必ず」というより「推測」の意を表しているが、下記の3つの例文は「推測」の日本語表現と対応した“得”に見られる。

- 50) 您想大概得什么时候回来（アナタノオ考テハ大概何時頃帰ルデシヨ）下六十二
- 51) 那么他得多咱才能忙完了呢（然ラハ彼ノ忙イノハ何時ニナツタラ終リマシヨウ）下八十二
- 52) 巧了得过个十天八天的罢（多分八九日過タラ宜イデシヨウ）下八十二

(58)

5.3 能願動詞“要”に対応する日本語の表現形式

能願動詞“要”も“得”と同じく「何かを必ずする必要がある」を意味するが、“得”のような強い義務は感じない。“要”にも「ナケレバナラナイ」「命令表現」との対応と例53)のように「是非」に訳した例が1例見られる。

53) 你总要快办才好 (アナタ是非早く処分シテ下サレバソレデ宜敷イ) 下七十

また、使役表現に訳した例文が1例見られ、これは命令表現の文を叙述文にした訳文として扱いたい。

54) 所以告诉赶车的。要快快的走。(車夫ニ話シテ早く走ラセタ) 上百四十四

園田(2018)では中国語関係書における当為表現について分析考察し、「ネバナラヌ」を二重否定形式による当為表現としている。「ベキ」を当為表現とする研究も少なくない故、以上のことから必要性を表す能願動詞は当為表現と命令表現に対応していると言えるのではないかと考えられる。

5.4 以上のような日本語の特定の表現形式との対応訳が見られなかった中国語表現

55) 远越重洋自然应该贵的 (遠洋ヲ越テ来ルカラ元ヨリ高イ) 上九十九

56) 先得出告示安慰民心 (先ヅ告示ヲ出シテ民心ヲ安撫スル) 上八十七

57) 干的用匣湿的得用瓷罐儿 (乾タノハ箱ニ入レ湿タノハ缶ニ入レル) 上九十七

58) 连个钮襻儿。还得找人去钉哪。(鈕ノヒモマデモ人ニツケテモラウ) 下三十四

例文55)の“应该”は「当然だ」の意を表し、例文56)～58)の“得”は共に「必要がある」の意を表しているが、そのような意を表す日本語表現は日本語訳文に見られない。

6. 禁止・阻止を表すもの

禁止・阻止を表すものは“別”をはじめ、“不要、不用”が見られ、【表4】に示す。

【表4】『清語会話案内』における禁止・阻止を表す能願動詞

能願動詞	対応する日本語の表現形式 (例文数)	中国語の文例	日本語の訳文
別	～ナ (13)	别瞞着	瞞着スルナ
		别耽误工夫	浪費スルナ
		别挡着道儿	道ノ邪魔ヲスルナ
		别受贿赂	賄賂ヲ取ルナ
		别搅我	私ノ邪魔ヲスルナ
		别插言儿	口ヲ入レルナ

能願動詞	対応する日本語の表現形式（例文数）	中国語の文例	日本語の訳文
	「テハナラナイ類」(7)	别丢了	失テハナラス
		别在外头	外ニ居テハイケヌ
		别怪他那个话	彼ノアノ話ヲ怪デハナラナイ
		别竟看外面儿	只外面バカリ見テハナラス
		别学他嘴里混遭 遍人家的	彼ノ真似ヲシテ人ヲ悪口 シテハナラナイ
		别大声嚷	大声デ騒デハナラナイ
		别用书套	紙包ヲ用テハナラナイ
	能願動詞との対応訳が見られなかつた文 (1)	别大意了	怠ラナイ
不要	「テハナラナイ類」(4)	不要那么松	ソナニユルクテハイケヌ
		不要多思多想	色々ト考ヘテハイケヌ
		不要多思多想	種々ニ考ヘテハイケマセン
		不要讲究人	人ヲ批評シテハナラナイ
	～ナ (1)	不要买新的	新ラシキハ買フナ
不用	～ナ (1)	不用费事	御心配下サルナ
	ニハ及バヌ (2)	不用忙着预备饭	急イデ飯ヲ作ルニハ及バヌ
		不用起誓	誓ヲ立テルニハ及バヌ

6.1 能願動詞“別”に対応する日本語の表現形式

『清語』では禁止・阻止の“不用”と“不要”のほか、“別”が最も多く13例見られる。“別”は“不要”の話しことばとして必要性を表す“要”の否定表現である。禁止や制止を表す表現として動詞「～ナ」形との対応が最も多く見られる。

山岡（2000）では、「意志動詞 + runa については、命令接辞 -ro と否定辞 -na が形態的に両立しないため、意味的に否定と命令を兼ねた接辞として固有の形態を持ったものであると、文機能としては<命令>に含めてよいと考える。」と述べている。

また、「テハナラナイ」「テハイケナイ」との対応が7例見られ、能願動詞“別”は禁止機能の命令表現と禁止を表す「テハナラナイ類」と対応していると言える。

6.2 能願動詞“不要”に対応する日本語の表現形式

能願動詞“不要”は5例見られ、“別”の出現頻度より少ない。これは『清語』が会話書であるためより話しことばの“別”が多用されたと考えられる。“不要”にも禁止機能の命令表現「～ナ」と禁止を表す「テハナラナイ類」との対応が見られる。

(60)

6.3 能願動詞 “不用” に対応する日本語の表現形式

能願動詞 “不用” は「必要がない」を意味し、「～ナ」との対応が1例と下記2例のように「ニハ及バヌ」との対応が見られる。

59) 不用忙着预备饭我先吃一点儿点心罢（急イテ飯ヲ作ルニハ及バヌ私ハ先ニ少シバカリ菓子ヲ食ベヨウ）上百二十六

60) 你也不用起誓现在你是少了多少银子不卖罢（汝誓ヲ立テルニハ及バヌ汝は只今ノ所幾許ヨリ少クテハ売ラナイカ）下七十七

6.4 以上のような日本語の特定の表現形式との対応訳が見られなかった文

61) 千万別大意了（怠ラナイコトガ肝要デス）上百五十五

例文61) の中国語表現は「油断するな」「油断してはいけない」の意を表しているが、日本語訳文を見ると場面に応じた訳文に見られ、“別”と対応する日本語表現は見られない。

7. まとめと今後の課題

本稿では、近代中国語会話書『清語会話案内』を資料として、中国語における能願動詞及びこれに準じる表現を対象に、中国語の能願動詞に対応する日本語の表現形式について、願望や意志を表すもの、可能・可能性を表すもの、必要性を表すもの、禁止・阻止を表すものに分けて見てきた。

『清語』で見られる願望や意志を表す能願動詞は“要”を用いた例文が最も多く、“要”のほか“肯、敢”とそれらの否定表現が見られる。そのほとんどが「タイ/タガル」に訳されていることがわかった。また、意向形、「ツモリダ」と動詞無標形式との対応が見られた。

『清語』で見られる可能・可能性を表すものとしては“会、能”とこれらの否定表現と“可以”が見られ、日本語訳文の「(ラ)レル/可能動詞」と「デキル」及び否定表現との対応がそれぞれ見られた。

必要性を表すものは“该当、应该、应当、该、得、要”が見られ、「ベキ」と「ナケレバナラナイ類」の当為表現と命令表現との対応及び、“得”と推測表現との対応が見られた。

禁止・阻止を表すものは“別、不用、不要”が見られ、禁止機能の命令表現、禁止表現との対応、さらに“不用”には「ニハ及バヌ」との対応が見られた。

また、“会”に関しては、「能力」の意のみ見られ、「可能性」の意のものは出ていない。

これについては、当時「可能性」を意味する“會”がまだ普及していなかったか、それとも単に『清語』に見られないだけか、なお追究の余地があるようである。

さらに、近代中国語文法書『日清語学金針』における“敢”の訳文「ヨウ・・・・マス」の「ヨウ」についての解釈をも今後の課題にしたい。

参考文献

- 西島良爾（1900）『清語会話案内』上巻・下巻 青木嵩山堂
- 馬 紹蘭・杉房之助・謝 介石（1905）『注釈日清語学金針』 日清語学会
- 安達太郎（2002）「意志・勧誘のモダリティ」宮崎和人ほか『モダリティ』（新日本語文法選書4）くろしお出版
- 王 雪（2016）「北京官話教科書『清語会話案内』の成立過程及びその言語の一考察」『東アジア研究』14 山口大学大学院東アジア研究科
- 川口榮一（1980）「『能願動詞』について」『京都外国語大学研究論叢』21
- 呉 志寧（2015）『日中両言語における可能表現に関する対照研究：日本語教育における可能表現のあり方について』白百合女子大学 博士論文
- 園田博文（2018）「中国語会話書における二重否定形式当為表現「ネバナラス類」とその周辺—明治以降昭和20年までの資料を中心に—」『近代語研究』20 武蔵野書院
- 孫 樹喬（2014）『意志表現をめぐる日中対照研究』神戸市外国語大学 博士論文
- 仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 森田良行（1977）『基礎日本語：意味と使い方』角川書店
- 森山卓郎（1990）「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』2
- 山岡政紀（2000）『日本語の述語と文機能』（日本語文法業書13）くろしお出版
- 呂 叔湘（2003）『中国語文法用例辞典—《現代漢語八百語増訂本》日本語版』東方書店

